

4つの「守る」

1. 子育て・教育



2. 福祉・健康



3. 産業・経済



4. 防災減災・生活環境

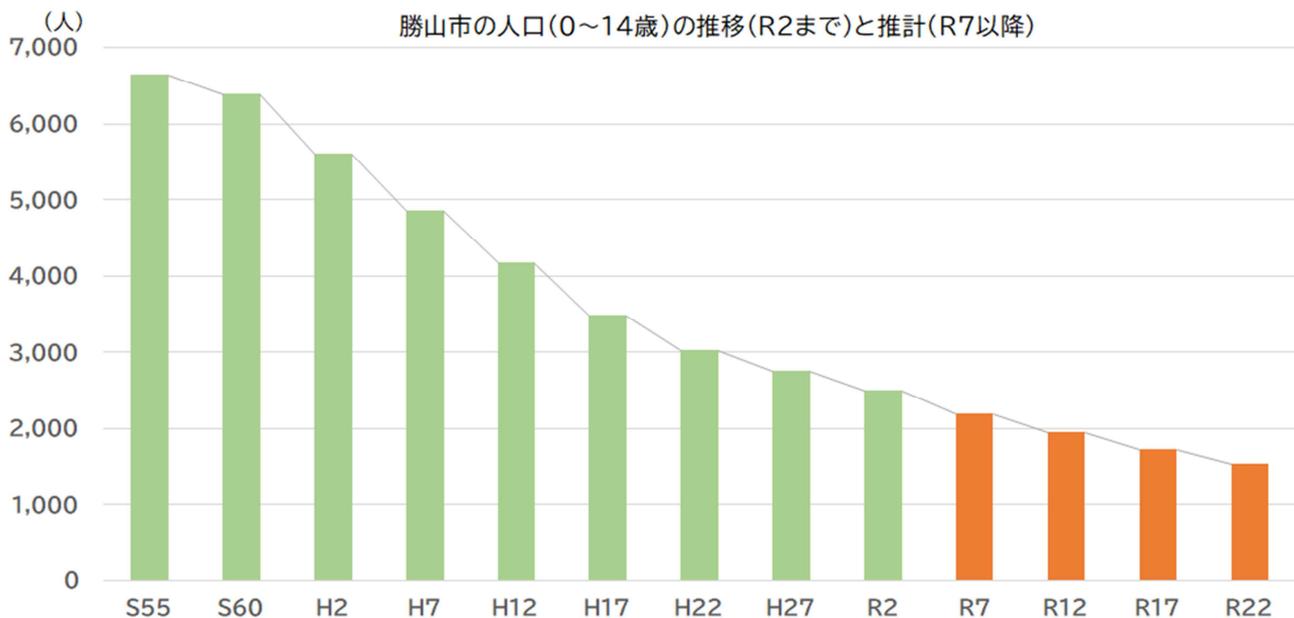


1 子育て・教育

現状

40歳代以下の人口減少に加えて、未婚率が男女とも上昇傾向にあることで、出生数は長期にわたり減少が続きます。一層の人口減少・少子高齢化の進行が予想される中、核家族化や新型コロナウイルスの影響など社会情勢が変化し、地域のつながりの希薄化、地域コミュニティの活力低下など地域社会における子育てや教育を取り巻く環境が厳しくなっています。一方で、福井県は学力・体力ともに全国トップクラスを維持しています。

勝山市では市内すべての公立小中学校がユネスコスクール※に加盟し、学校・家庭・地域が連携して持続可能な社会の担い手を育むESDに取り組んでいます。また幼児教育や保育、放課後児童クラブの実質無償化、子ども医療費助成対象拡充など、安心して子育てができる環境の整備に取り組んでいます。



出典：総務省「国勢調査」(R2まで)、第2期勝山市人口ビジョン(R7以降)
注)R7以降は、「人口動向分析・将来人口推計のための基礎データおよびワークシート
(令和元年6月版)」による推計値



第3章 政策目標 【4つの「守る」-子育て・教育】

課題

- 将来の結婚や子育てに関する不安を取り除き、希望が持てるよう結婚から出産、子育てまで市民に寄り添った切れ目のない支援を行う必要があります。
- 子どもの育て方など育児の不安や、子育てと仕事の両立など、子育て家庭における不安や負担に対し、家庭・地域・企業・行政が、それぞれの役割を担い子育て支援を行う必要があります。
- 質の高い教育環境の充実に取り組み、「生きる力」や生活習慣の基礎、社会性の芽生えなど、社会に貢献できる人材を育成するため、学校教育と家庭、地域の連携を強化する必要があります。
- 急激な国際化や情報化の進展など、変化の激しい社会において適正な活動を行うための考え方を身につけるなど、生き抜く力を持った人材を育む必要があります。また情報モラル*教育を徹底する必要があります。
- 今後ますます進行が予想される少子化を見据え、次代を担う子ども達にとって望ましい教育環境を整える必要があります。



子育て・教育分野における取り組みの方向性

政策目標 1

安心して結婚・出産・子育て
ができるまち



- ① 結婚・出産・子育てに対する不安を取り除き、将来に明るい希望が持てるよう、市民に寄り添った切れ目のない支援・サービスを充実します。
- ② 仕事と子育てのバランスに配慮した柔軟な働き方ができるよう、保育サービスを充実するとともに、家庭・地域・企業・行政の連携に取り組みます。
- ③ 子育ての心理的・身体的負担や経済的負担など様々な負担の軽減が図れるよう、個々の状況に合わせた相談ができる体制を整えます。
- ④ 共働き世帯やひとり親世帯、配慮を必要とする家庭であっても安心して子育てができる環境を整えます。

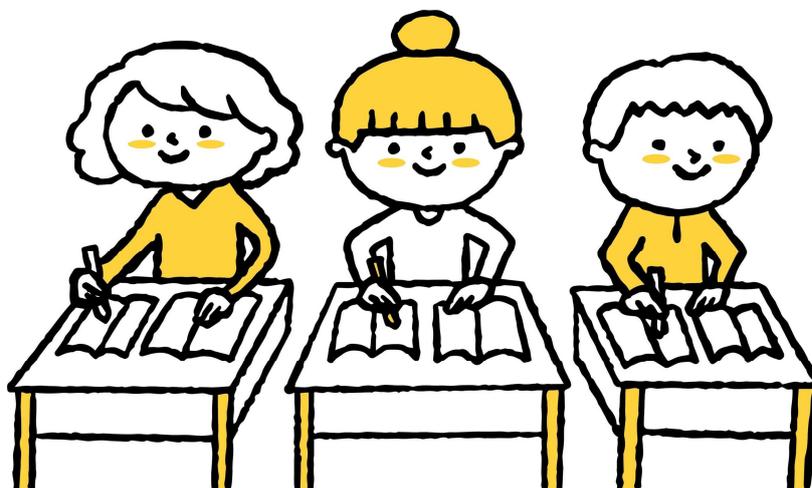


政策目標2

新しい時代を生き抜く力
を育むまち



- ① 全国トップクラスの学力を基礎に、変化の激しい社会で「生きる力」を身に付けられる教育を行います。
- ② 家庭・地域との連携・交流を促進し人間性・社会性を身に付ける学校教育を行うとともに、ESDを推進し「ふるさと創生」の担い手を育成します。
- ③ 安全性と快適性、教育の効率性を向上するため施設・設備を充実します。
- ④ 学校の再編など、少子化の進行を見据えた学校教育環境の整備にあわせて、勝山市ならではの特色ある教育を推進できる環境を整えます。
- ⑤ 市民の学びの欲求に応えるため、市民が気軽に学べる環境を整えます。
- ⑥ 家庭・地域・学校・行政が連携し、市民総ぐるみの育成環境づくりに取り組み、青少年の様々な体験活動を支援します。



政策目標3

教育連携を通して社会で
活躍できる人材を育むまち



- ① 様々な知見や人材育成機能を持ち、さらには勝山市の魅力を生かすことのできる高等教育機関等を誘致し、地域に貢献できる人材を育みます。
- ② (新)中学校、高等学校、高等教育機関等と様々な教育連携を行い、質の高い教育を推進します。
- ③ 誘致を進めている福井県立大学古生物学関係新学部と市内小中高校との恐竜やジオパークなどを中心とした交流・連携を推進し、社会で活躍できる人材の育成体制を構築します。





関連する個別計画	勝山市地方創生総合戦略
	勝山市男女共同参画基本計画
	勝山市子ども・子育て支援事業計画
	勝山市食育推進計画
	恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク推進実施計画
	教育に関する大綱
	勝山市立中学校再編計画